



東京浅草中央ロータリークラブ 週報

〒111-8765 東京都台東区西浅草3-17-1 浅草ビューホテル2階
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL : <http://www.asachu-rc.jp>

2015－2016年度テーマ

R.I. テーマ 「世界へのプレゼントになろう」

R.I. 会長 K.R. "ラビ" ラビンドラン

地区ガバナー 鈴木 喬

クラブテーマ 「"初心にかえろう" "ありがとう" "おかげさま" の心で」

クラブ会長 山尾 尚司



本日の卓話

「ガン情報の読み方」

医学博士 松本武夫 様

2016年5月25日

第1451回例会

会長 山尾 尚司
幹事 斎藤 彰悟



今後の卓話予定

6/1	「自国(チェコ)紹介と留学体験」	青少年交換留学生 イジー君
6/8	「今戸焼」	今戸焼白井 六代 白井裕一郎 様
6/15	「日本ロータリークラブ創立者・米山梅吉伝」	講談師 五代目 一龍斎貞花 様
6/22	クラブ協議会	本年度事業報告
6/28	最終例会「この1年を振り返って」	山尾会長・斎藤幹事



6月結婚記念日

3日 (44周年) 上原ご夫妻 · 10日 (27周年) 高木ご夫妻
28日 (18周年) 斎藤ご夫妻

前回 (5/18 1450回例会) の記録

来訪者紹介

◆ゲスト	1名	卓話者 東京医科歯科大学 名誉教授 若松秀俊 様
◆ビジター	1名	柏西R.C. 岡島昭信 様

出席報告

総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正出席率
43名	1名	4名	33名	6名	84.62%	1448回例会修正 欠席5名・出席率87.80%

会長報告 <山尾会長>

・三社様のお祭が終わり、6月4・5日の蔵前神社の例大祭、11日・12日の鳥越神社のお祭りと暫くは我々の近辺は多忙な毎日が続きます。三社祭では、藤掛さん、高木さん、ロータークト、交換留学生のイージー君達がお世話になりました。私はあるお店で、状況次第でイージー君を案内するつもりで待機しておりましたが、カウンターのお客で湯島と深川の客人とたまたま、16、

17、18年生まれということで話が弾み深川で再会することになりました。祭と酒が取り持つご縁でしょうか。

また、今週早々に悲喜こもごものニュースがありました。悲しい方は16日に横須賀の老舗料亭の「小松」の全焼、朗報は17日の国立西洋美術館の世界遺産が認定されただとのニュースです。何事もすべて万事良しとはいかないものと認識しました。

幹事報告<斎藤幹事>

- ・東京青年会議所台東区委員会より、4月17日(日)に台東区リバーサイドスポーツセンターで開催された、第40回わんぱく相撲台東区大会に対して、当クラブよりの協賛金への礼状が届きました。因みに

参加者は、小学1年～6年生で285名との事です。

- ・他クラブより例会変更のお知らせが届いておりますので、クラブ事務所にてご覧ください。

委員会報告

<社会奉仕委員会>

- ・今週も熊本地震への義援金BOXを回させて頂きます。皆様の御芳志を宜しくお願ひ致します。

<岩田次年度幹事>

- ・本日の例会終了後に、第4回被選理事役員会が開催されますので、対象者の方は参加を宜しくお願ひ致します。

ニコニコボックス

<山尾会長、斎藤幹事>

- ・若松秀俊様、本日の卓話「歴史の狭間に埋もれた偉人・カルシュ博士」楽しみにしております。

ご関係の皆様に心より感謝申し上げます。
ビューホテルさん、畠の宴会場をありがとうございました。

<永井、天笠、上原、原田>

- ・本日の卓話「歴史の狭間に埋もれた偉人・カルシュ博士」東京医科歯科大学名誉教授若松秀俊様、宜しくお願ひ致します。

<浅野、立野、渡辺、藤掛>

- ・中村先生、旧SAA（次期渡辺会長を励ます会）では大変おいしい食事とお酒をありがとうございました。楽しい時間を過ごさせて頂きました。

<宮崎、浜中、後上、長沼、永井、山尾、渡辺、植木、松本、大塚、吉沼、矢野>

<長沼>

- ・三社祭 お疲れ様でした！

<宮村、中村、斎藤>

- ・結婚記念日に花束を戴きまして誠に有難うございました。

<宮崎、浜中、後上、長沼、永井、山尾、渡辺、植木、松本、大塚、吉沼、矢野>

<宮村>

- ・三社祭、恙なく斎行する事ができました。

- ・100%出席の表彰をして戴きまして誠に有難うございました。

第4回 被選理事・役員会 議事録

<報告事項>

1. 次年度の事業計画書について

岩田次年度幹事より、次年度の事業計画書の作成に当たり、以下の留意点を説明（配布物は、式次第のほかに3枚）。

●「年間行事&クラブ事業」に記載したとおり、地区から卓話者を招いて卓話をして貰う月間が年に6回決まっている。この点も踏まえて事業計画を作成していただきたい。

2. その他

(1)次年度の事業計画書の提出期限について

次年度の事業計画書各委員長が、5月25日までに、データで次年度幹事岩田に提出をする。

(2)地区主催の会合・懇親会の費用負担について

渡辺次年度会長より、従来、クラブで費用負担をしていた地区主催の会合・懇親会について、次年度から、①会合費用は従来どおりクラブ負担とするが、②懇親会費用については、参加者の自己負担に変更したいとの方針が示された。

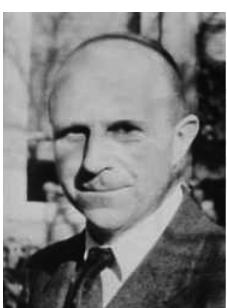
- ・活動方針を踏まえ、各委員会でそれに沿った事業計画を考えていただきたい。
- ・次年度は、活性化委員会の提案により、1人委員会をなくすべく、各委員長が必ず理事も兼ねる体制に変更して委員会をスリム化した。その関係で、従来は複数の委員会が担当してきたことを1つの委員会で担当することになるので（例えば、クラブ奉仕と会員増強→クラブ奉仕に一元化）、各委員会の役割を正確に把握したうえで事業計画を作成していただきたい。

「歴史の狭間に埋もれた偉人・カルシュ博士」



東京医科歯科大学 名誉教授

若 松 秀 俊 様



フリッツ・カルシュ博士
(1893-1971)

大正14年より14年間にわたり、旧制松江高等学校（現島根大学）で教育に力を注いだドイツ人哲学者フリッツ・カルシュ博士は日本の哲学や宗教の研究家で教育者でもあり、昭和15年から5年間は外交官でもあった。

彼の薰陶を受けた著名人には「長崎の鐘」で知られる永井隆、免疫学者の奥野良臣などの科学者、政治家の福永健司、細田吉蔵や文学者、法律家、外交官などに枚挙の暇がない。ラフカディオ・ハーンと並ぶ功績を残した同博士は、数多くの風景画、歴史的写真、それに専門著書と膨大な未整理の研究原稿を残している。戦

中戦後の混乱により歴史の狭間に埋もれた哲学者、教育者としての大きな足跡が広く国民に知られるように1999年以来、日本国内、ドイツおよび米国で蒐集した関連資料の永久保存のために、歴史的価値のある松江市奥谷町の旧住居を記念館として改修・活用する呼びかけを行ってきた。

全く筆者と無関係であったカルシュの調査を始めてから16年になるが、筆者と彼の次女フリーデルンとの偶然の出逢い（1999）がきっかけでその縁に遭遇した。調査資料から彼の当時の生活や生徒との交流をほぼ再現できたが、調査を始めて間もない頃に協力してくれた同博士の愛弟子は殆どがすでに他界してしまった。彼らの残してくれた言葉や手紙を時に想い出す今日この頃である。ドイツの文化と風土に、若き日に触れる機会をドイツから与えられた小生シュトゥットガルトの小さなホテルでカルシュの次女との出会いから、このような仕事に携わることになったのは、小生に賜った天命と考えて調査・顕彰に尽力してきた。

カルシュが14年間住んだ松江市奥谷町の「官舎」について地方新聞社との保存呼びかけが指定文化財登録への道を開き保存修理も完了した。新聞報道、松江郷土館展示会、日独協会の顕彰記事のお陰で、カルシュのことが世の中に知られるようになったからであろうか。それがNHK松江放送と進展し、文化財登録の申請の運びとなった経緯がある。やがて膨大な哲学の未発表原稿、写真、絵画、調度品などカルシュの遺品も広く世に公開できるものと期待している。

カルシュには現代の教育に大きく影響を及ぼしている人智学とシュタイナーを日本に紹介した業績がある。1925年に来日したカルシュ夫妻が交わした1923年当時のシュタイナーに関するノートが現存し、スイスのゲーテアヌムでのシュタイナー信奉者同士の交流も確認されている。なお、シュタイナー思想の流布については、

昭和10年頃を境にヒトラーによって禁じられたが、密かに彼は日本で広めていたことが知られている。戦後これが復活してシュタイナー学校が創られ、最近は一貫教育の象徴となっており、教育史上カルシュは重要な位置を占めている。また多くの学者（三笠宮崇仁殿下、西田幾太郎、鈴木大拙、高橋敬視、長屋喜一）との交流も確認されている。さらにカルシュが当時の高校生への講義のなかで、「西暦2000）頃、ヨーロッパ文明が自己矛盾から他との軋轢が各所で生じること」を語った注目すべき記録を見ることができる。

1968年に彼を慕う、かつての生徒らが彼を日本に招待したことがある。教育の荒廃が各所で声高に叫ばれているさなか、彼が教育者としてハーンとは全く別の教育の見本を残した大きな貢献と、生徒や近隣の人々との密な交友から彼の存在の偉大さを評価する必要を感じている。

カルシュの親類にはショパンコンクール（1937）で入賞したピアニストであり、チェンバリストであるエディット・アクセンフェルトがあり、多くの日本人弟子を残している。また、モラクセラ・ラクナータ菌を発見した眼科学の世界的権威のテオドール・アクセンフェルト博士がいる。なお、現在ベルリンの博物館に歴史的重要資料として厳重保管されている「ヒトラーの行動記録（16ミリ）」を戦後ハンス・バウアーから押収し保存していたのが長女メヒテルトの夫ヘルベルト・セイントゴアである。200年前の富豪でライン川流域の同名の市長を勤めたラツアルス・セイント・ゴアは彼の祖先である。最近、ドイツから顕彰されて子孫が大歓迎を受けた。カルシュは、戦後活躍した多くの著名人を育んだだけでなく90年前の日本各地の貴重な記録を後世に残した功績があり、多くのことが語り継がれている全国に誇るべき偉人である。

現在、長女は米国で、次女はドイツでシュタイナー教育に携わり継続的に尽力している。そしてこれを介して後者からは二代にわたって直接教育を受けた日本人にも辿り着くことができるほどである。

フリッツ・カルシュ 略歴

ブラゼヴィッツで誕生（1893）、ドレスデン・ノイシュタットギムナジウム（1903）、
ブラゼヴィッツ職業ギムナジウム（1906）を経て、ドレスデン工科大入学（1914）。
第一次大戦時 通信兵として従軍（1914-1918）、マールブルク大入学（1919）、
哲学博士授与（1921）、松江高等学校着任（1925）、同校退任・ドイツ帰国（1939）、
ドイツ大使館勤務 副武官（1940-1945）、ドイツへ強制送還（1947）、年金生活・
アルベルト・コルベ・ハイム入居（1967）、旧制松江高校同窓会の日本への招待
(1968)、カッセルで死亡（1971）、日独文化交流の架け橋の功労者として日独協
会が森鷗外らとともに紹介（2005）。

若松 秀俊 略歴

1946年福島県生。1972年横浜国大大学院修了後に東京医科歯科大医用器材研究所、足利工大および福井大教授を経て、1992年より東京医科歯科大医学部教授、同大学大学院教授、2012年より同大学名誉教授。その間、沖縄県立看護大学院など非常勤講師。専門は生体機能支援システム工学。1973年～75年ドイツ学術交流会奨学生としてエルランゲン・ニュルンベルク大学医学部バイオサイバネティクス研究所研究員、米国オレゴン州立大学、中国南京航空航天大学などの客員教授・研究員兼任。工学博士（東京大学）。